

千葉県支部だより

入江康文

今回は、事務局から千葉県透析医会の紹介をするようにとの連絡を頂きましたので、簡単ですがご報告致します。

小生が初めて透析医療に携わったのは、昭和45年母校の鹿児島大学においてでありました。昭和50年、郷里の千葉県に帰省、千葉社会保険病院（現JCHO千葉病院）に就職し引き続き腎疾患の治療に従事、その後開業して現在に至っています。

昭和54年4月に日本透析医会の前身である都道府県透析医会連合会が設立されました。それから約9年後の昭和63年3月26日に故鈴木満先生、吉田豊彦先生を中心として（小生も末席にいましたが）、千葉県透析医会の設立総会を行いまして、当時帝京大学市原病院内科の教授をしておられた小出圭三先生を初代の会長に選出しました。その後、元国立佐倉病院院長だった横山健郎先生が2代目の会長、現みはま病院理事長の吉田豊彦先生が長い間、第3代会長をお務めされた後、現在は小生が任にあたっています。現在の会

員施設は74、会員数は102名となっています。

吉田豊彦先生は長い間、日本透析医会の理事をされておられ、特に災害時の対策の構築に尽力されましたが、千葉県の医会もその流れを引き継いでおり活動のメインとなっています。東北大震災のときの避難透析者の受け入れや、インフルエンザ流行時には具体的な対応を取ることができました。医会活動のもう一つは、会員のために産業廃棄物の処理に関する情報提供を行っており、これも設立以来連綿と続けています。これらの点について、非会員施設との連携をどうするのかという問題があり、非会員施設の入会を勧めています。

小生は千葉市の医師会長を8年前から務めておりまして、毎年医師会の代議員会と日本透析医会の地区会長会議と日程が重なってしましまして、会長会議には一回も出席できておりません。この場を借りて深くお詫び致します。

全国の会員の皆様には、ご容赦頂くとともに、今後とも千葉県透析医会をよろしくお願い致します。